

令和7年度 施策評価シート

施策の大綱	3. 交通拠点性を生かした都市活力の向上	評価担当者
基本施策	(1) 企業活動の促進・働く場の充実	産業環境部長 佐藤 康二
目指す姿	多様な企業が市内に立地し、事業活動を行うことで、雇用が創出されています。	
関連する分野別計画		

SDGs

基本施策に関連する SDGsのゴール	8 働きがいも 経済成長も 	9 産業と経済革新の 基盤をつくらう 	10 人や国の不平等 をなくそう 	12 つくる責任 つかう責任 	17 パートナリシップで 目標を達成しよう 
SDGs推進の考察	民間産業団地「亀山・関テクノヒルズ」を中心に、市内へ多様な産業が立地したことで、本市の産業構造に厚みが増し、厳しい社会経済情勢の中でも地域経済の活性化と雇用の場の確保に大きく貢献できた。また、市内事業所に対し、亀山市雇用対策協議会やハローワーク鈴鹿等と連携し、研修会を通じて働き方改革を推進するとともに、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動を通じて、企業との協働によるまちづくりの推進も図った。				

■関連する主な事業

(単位:千円)

[illegible]

太字：主要事業

■成果指標

新規企業立地等件数

指標			現状値		実績値				目標値
					R4	R5	R6	R7	
1	新規企業立地等件数	件	—	—	4	5	5	7	4
2	市内事業者への連携支援件数	件	—	—	0	1	1	1	4
3	SDGsに取り組む企業数	社	3	R3	23	30	36	36	7
4									
5									
6									
7									

■市民アンケート調査

項目		現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察 (令和6年度施策評価内容を参考記載)
1	企業活動が活発に行われている	重要度 1.18	1.24	1.18	企業活動、働く場の充実いずれも重要度は高いが満足度が低い傾向となっており、更なる企業誘致、既存企業への支援、雇用創出に向けた取り組みが必要である。また、人々の生活や嗜好が多様化する時代に応じた商業・サービス業等の3次産業が少ないため、近隣市への消費流出、若年者流出が推察される。
		満足度 ▲ 0.17	△ 0.11	▲ 0.31	
2	働く場が充実している	重要度 1.42	1.45	1.45	
		満足度 ▲ 0.39	△ 0.43	▲ 0.47	
3		重要度			
		満足度			
4		重要度			
		満足度			

■施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 多様な産業集積の促進	亀山・関テクノヒルズを中心に多様な産業を集積するとともに、産業振興条例の改正を行った。今後は新たな産業団地の確保に向け、開発事業者を活用して検討を進める。
② 既存企業の活性化	冊子「かめやまの事業所」や図書館の展示コーナー・広報亀山を活用して、市内企業の魅力発信を行った。今後も、商工会議所や雇用対策協議会等と連携して取り組む。
③ 雇用の創出と働きやすい環境づくり	亀山市雇用対策協議会やハローワーク等と連携して、企業の雇用を確保するとともに、働き方改革を推進するための実務的な研修会を開催した。
④ 企業との連携によるまちづくりの推進	鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動への参画により、企業と協働によるまちづくりに寄与できた。また、三重県SDGs推進パートナー登録制度の普及に努める。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

多様な産業集積の促進については、産業振興条例の奨励措置指定事業者8社について、産業振興奨励金を交付するとともに、これまでの産業振興条例の検証を踏まえて制度を見直し、終期を4年間延長する等の改正を行った。また、既存企業の事業拡張に伴う立地支援のほか、民間産業団地「亀山・関テクノヒルズ」の分譲区画が完売したため、新たな産業団地の開発に向け、概略設計業務委託を発注し、土地利用計画図の作成及び概算工事費の算出を行った。既存企業の活性化については、亀山商工会議所と連携した経営指導を行うとともに、冊子「かめやまの事業所」や図書館の展示コーナーでの企業紹介、広報亀山での特集記事など広く市内企業の情報を発信し、企業の魅力や製品・技術への理解を広めた。雇用の創出と働きやすい環境づくりについては、亀山市雇用対策協議会やハローワーク鈴鹿等と連携して、市内企業の雇用を確保するとともに、研修会を通じて働き方改革を推進するための支援を図ることができた。また、就職氷河期世代等を対象とした相談窓口を設置するなど順調に進んだ。さらに、働く環境づくり懇談会において「ハラスメント0(ゼロ)を目指して」をテーマに意見交換を行うことで「働きやすい環境づくり」についての機運醸成につなげることができた。企業との連携によるまちづくりの推進については、市内企業29社と関係機関で構成する鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動を継続的に行った。全体としては、基本施策で設定した成果指標「市内事業者への連携支援件数」は企業への働きかけはしたものの目標に達することはできなかったが、「新規企業立地等件数」など粘り強く取り組んだ結果、目標を越え、基本施策が目指す姿に順調に近づいたと考える。

A

順調に進んだ

今後の展開方針

本市の立地環境におけるポテンシャルを生かし、産業振興奨励制度等を活用しながら、将来の成長が期待される産業分野の企業誘致等に取り組むとともに、本社機能の地方移転を促すことで、多様な産業の集積を促進する。また、既存企業の事業展開、事業拡充を図り、雇用の創出を図る。さらに、新たな産業団地の確保に向け、民間開発事業者の力を活用して事業を進めるため、事業者の意向確認等の具体的な取り組みを進める。一方で、CSR活動や持続可能な開発目標(SDGs)の取り組みを推進するとともに、脱炭素に向けた取り組みについても関係部署や商工会議所と連携し、企業に対して促していく。雇用に関しては、亀山市雇用対策協議会、ハローワーク鈴鹿や亀山商工会議所など関係機関と連携して、一体的な支援を行うとともに、企業や労働団体など関係機関と情報交換を行いながら、働きやすい職場となるよう支援を行う。さらに、市内企業や学校と連携し、若年者の市内就職を促進する。